

☆☆☆毎月8日は畜舎一斉消毒の日☆☆☆

分娩前後の増し飼いについて

2012.9.11-12 市場研修会 おおいた肉用牛振興協議会

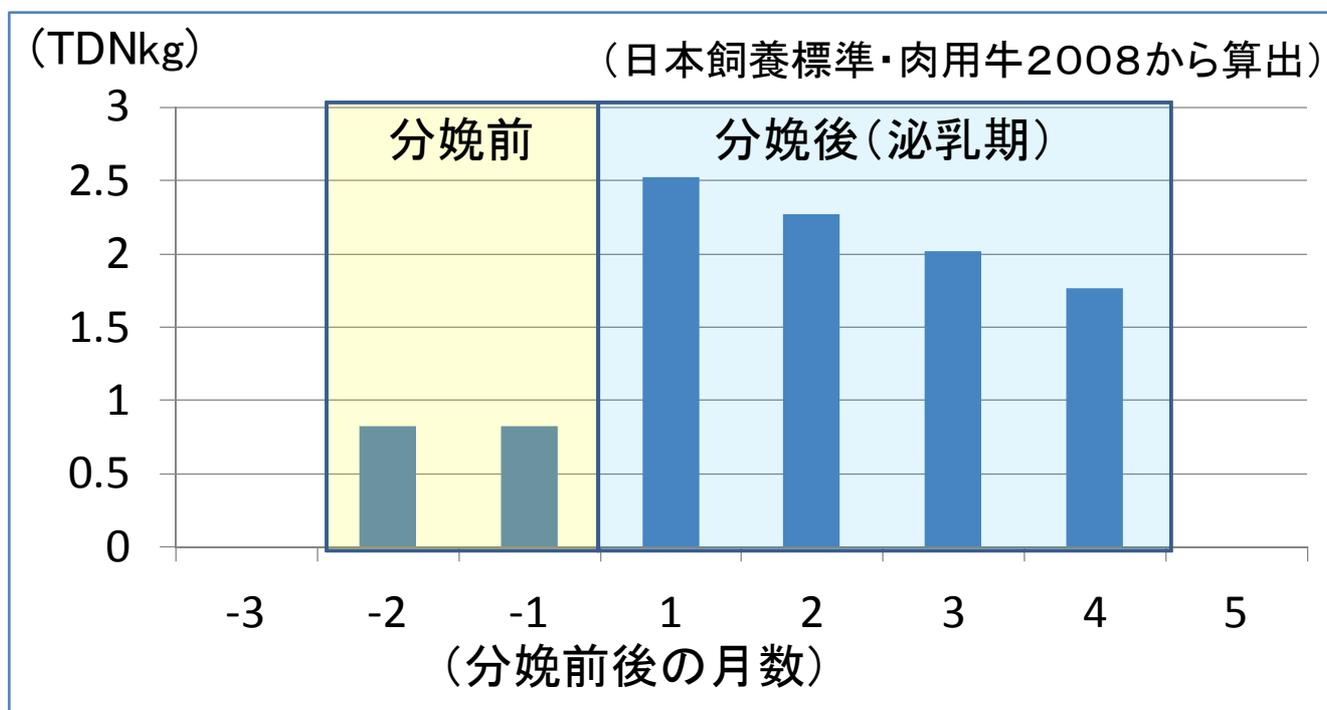
丈夫な子牛が生まれて、すくすく育つために

(問) 順調に成長するのはどっち？

分娩前の母牛の栄養が足りていた子牛？ 不足していた子牛？

(その1) 基礎編

母牛が必要とする養分要求量について、分娩前後に増加する量をグラフにすると次のようになります



この増加する養分要求量を飼料給餌量で表すと次のようになります

分娩前

濃厚飼料1kg、
イタリアン乾草0.5kg
程度の増し飼い

分娩後(泌乳期)

濃厚飼料2~3kg、
イタリアン乾草1~2kg
程度の増し飼い

(答) 分娩前の母牛の栄養が足りていた子牛のほうが順調に成長する
→ やっぱり分娩前からの母牛の飼い方が大事

分娩前の母牛は、胎児が発育する栄養や乳腺の発達に必要な栄養に加えて、来るべき分娩や次の発情サイクルに必要なエネルギーも蓄えなければなりません。

つまり、次の妊娠の準備は、分娩前から始まっているのです。ということは、分娩前の栄養管理が繁殖経営の核心であるといえます。

早速今日から、分娩予定日の横に増し飼いを開始する日を書き込みましょう。

増し飼いの給与量は、8月の市場研修会でもお話したように、牛の個体差や飼料の種類にあわせて、母牛を太らせすぎないように、分娩後は急激にやせさせないように、ボディコンディションを目安に調整しましょう。

(その2) 応用編

丈夫な子牛が生まれてすくすく育つためには、分娩前後に増加する母牛の養分要求量を満たすことが必要です。

しかし、分娩後に濃厚飼料の給与量を急に増加させると、母牛の第1胃内の微生物による発酵状態が変化して、母乳の質が変わってしまい、その結果子牛が下痢をしてしまうことがあります。

その対策として、分娩前から離乳まで同じ量を増し飼いする方法があります。

丈夫な子牛が生まれて、母乳性の下痢になりにくい給与方法

分娩前2ヶ月から離乳まで同じ量を増し飼いする
濃厚飼料2～3kg、
イタリアン乾草1～2kg

快適な飼養環境の確保と衛生対策にもしっかり取り組みましょう!!

※ご不明な点は、最寄りの振興局にお尋ね下さい。